

西脇病院のページ

【西脇病院の理念】

地域に信頼される良質な医療の提供

西脇市立西脇病院(☎22-0111)

ホームページ <http://nshp.jp/>

薬剤部から

2種類以上の薬を飲み合わせる時、作用が強くなりすぎたり、逆に効き目が落ちることがあります。これを「相互作用」といいます。

薬は、小腸で吸収され、全身に行き渡り、肝臓に戻って代謝され、体外に排せつされます。相互作用はこの一連の流れの中で起こるものですが、最も起こる頻度が高いのは代謝過程です。それは、薬を代謝する酵素が関わるためです。薬によって酵素を誘導するものと、反対に酵素を阻害するものがあります。前者は他の薬の代謝を早めてしまいうため、その薬があまり効かなくなります。後者は代謝に時間がかかるようになりますので、薬が体内に長く残り、効き目が強く現れるようになります。また、同じような作用がある薬を2種類飲めば薬の効きめが出すぎたり、副作用が出やすくなります。逆に作用が反対の薬を一緒に飲めば薬の効果が弱まります。

複数の診療科にかかっている、それぞれの科から薬をもらっている時は、現在どんな薬を飲んでいるのかを必ず医師に伝えてください。その際は、薬の現物か、薬品名や効

能を書いたもの、お薬手帳などを持参して、医師に見てもらうと良いでしょう。

相互作用は薬同士だけでなく、食べ物との間にも起こる場合があります。その代表的なものについて紹介します。

◆ワルファリンと納豆、クロレラ、緑黄色野菜

ビタミンKは、血液が固まる時に関わる因子(血液凝固因子)が肝臓で作られる際に必要な成分ですが、ワルファリンは、このビタミンKの働きを抑制することで血液凝固因子の生成を妨げ、血液を固まりにくくする作用を持っています。納豆は腸内でビタミンKを産生するため、またクロレラやほうれん草、ブロッコリーなどには豊富なビタミンKが含まれているため、これらの食品をとるとワルファリンの効果が発揮されにくくなります。

◆ニフェジピンとグレープフルーツジュース

高血圧や狭心症の治療薬であるカルシウム拮抗薬のニフェジピンなどは、水ではなくグレープフルーツジュースと一緒に飲んだり、薬を飲む前後にグレープフルーツジュースを飲むと、薬の血中濃度が上昇し、急激な血圧低下が起こることがあります。これは、

ニフェジピンを代謝・分解する酵素の働きを、グレープフルーツに含まれる成分が腸管で阻害するために起こるものと考えられています。

◆睡眠薬とアルコール

アルコールには、中枢神経の働きを抑制する作用があります。したがって、睡眠薬を飲んでいいる時にアルコールを口にすると、睡眠薬の作用が強められ、意識を失ったり、昏睡状態に陥ったり、呼吸機能が低下したりと重い副作用が現れることがあります。睡眠薬をアルコールと一緒に飲む、アルコールを飲んだ後に睡眠薬を飲むことは、危険ですので絶対に避けてください。

健康セミナーを開催します

毎月一回、西脇病院医師による「健康セミナー」を開催しています。参加費は無料です。

▼とき 2月20日(月)
午後3時～1時間程度

「すくわ」による血糖値、糖尿病教室のお知らせ

普段使用されている血糖測定器のメンテナンスを行いますので、自己血糖測定器をお持ちの方は持参ください。

▼とき 2月24日(金)
午後2時～3時
▼ところ 病院講堂(2階)
▼持ち物 糖尿病手帳
▼問合せ 内科
(病院内線5010)

西脇小児医療を守る会コラム 42

ママにだってできるんだよ!!



出会い・・・そしてつながり

昨年12月7日、多可町中區にて勉強会を行いました。少数の参加者でしたが、温かい雰囲気の中で意見交換会もでき、私たちにとっても有意義な時間となりました。

12月8日、救急ナイトスクールに参加しました。目の前に救える命がある時、慌てずに対応できるよう、心肺蘇生とAEDについて繰り返し学ぶ事が必要だと思えました。

9月と11月に愛媛県宇和島市で行われた小児救急医療学習会で講演をさせていただきました。私たちの活動に賛同してくださったお母さんたちが守る会立ち上げを考えておられると聞き、大変嬉しく思いました。その講演会がご縁となり子育て支援ボランティアの方からの依頼で1月に再び愛媛で講演会を行う運びとなりました。



ひとつの出会いが新たな出会いにつながっていることを改めて実感しました。

▲愛媛県宇和島市にて

◆問合せ 西脇小児医療を守る会
☎090-8538-1337 石井
<http://www.kodomonomirai.com>
info@kodomonomirai.com

健康バンザイ

74

西脇病院の医師が健康や病気に関するさまざまな情報を提供します。



感染対策シリーズ③

感染経路

西脇病院感染対策委員会
委員長
谷垣信吾 先生

感染症の感染経路には、飛沫感染、空気感染、接触感染、環境物質感染、昆虫媒介感染などがあります。感染症の種類によっては複数の感染経路をとるものもあります。

①飛沫感染

感染している人が咳やくしゃみをした際に、口から飛ぶ病原体がたくさん含まれた小さな飛沫を近くににいる人が吸い込むことで感染します。飛沫が飛び散る範囲は1〜2mです。飛沫感染病原体は、インフルエンザウイルス、おたふくかぜウイルス(流行性耳下腺炎)、風疹ウイルスなどです。

②空気感染

感染している人が咳やくしゃみをした際に、口から飛び出した飛沫が乾燥し、その芯となった病原体が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、近くの人だけでなく、遠くにいる人もそれを吸い込んで感染します。

空気感染をする病原体は、結核菌、麻しんウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルスなどです。

③接触感染

感染源である人に触れることで伝播が起こる直接接 触感染(握手、だっこ)、キス等と汚染された物を介して伝播が起こる間接接触感染(ドアノブ、手すり、遊具等)があります。黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌、RSウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルスなどが接触感染をする病原体です。

車イス3台を寄贈

「主人の7回忌に、お世話になった西脇病院にお礼を」と増田ツタ子さん(小野市)が車イスを寄贈くださいました。



▲大洞病院長に車イスを寄贈する増田さん

外来診療担当医表変更のお知らせ

平成24年1月現在

1月から小児科の飯島一誠医師(非常勤)による診察が始まり、外来診療担当医表を下記のとおり変更しましたのでお知らせします。

診療科	月	火	水	木	金
小児科	許 永龍	佐伯 啓介	許 永龍 (第1・第3・第5水曜日) 佐伯 啓介 (第2・第4水曜日)	許 永龍 (第1・第3・第5木曜日) 飯島 一誠 (第2・第4木曜日)	佐伯 啓介

健康づくりセンター行事予定

○2月1日～3月6日分

行事名	対象者	実施日時	場所
母子健康手帳の交付		月～金曜日(祝日を除く) 8:30～17:15	
3か月児健診	23年10月生	2月7日(火) 13:00～14:00	健康づくりセンター
	23年11月生	3月6日(火) 13:00～14:00	
1歳6か月児健診	22年7月生	2月14日(火) 13:00～14:00	
3歳児健診	21年1月生	2月24日(金) 13:00～14:15	
10か月児乳児相談	23年4月生	2月16日(木) 9:30～11:00	
離乳食教室	希望者	2月20日(月) 13:30～15:30	
健康相談	希望者	毎週水曜日 9:30～11:00	
こころの相談	健康づくりセンターに申込みが必要	2月2日(木) 9:00～11:00	
歯科訪問	歯科医院に通院困難な方(健康づくりセンターに申込みが必要)	2月15日(水) 13:30～15:00	自宅